

凸版印刷、「特産品バーチャル商談会」の実証実験を開始
「大阪スマートシティパートナーズフォーラム」の取り組みの一環として
生産者と小売店/飲食店とのマッチングをデジタルで支援
「フードストアソリューションズフェア 2021」で実証実験を実施

凸版印刷株式会社(本社:東京都文京区、代表取締役社長:磨 秀晴、以下 凸版印刷)は、スマートグラスを活用した、生産者と小売店/飲食店などをマッチングさせるサービス「特産品バーチャル商談会サービス」を開発。2021年12月2日(木)、3日(金)に開催される「フードストアソリューションズフェア 2021」で実証実験を実施します。

「特産品バーチャル商談会サービス」は、農場や漁港等の映像を、生産者が装着するスマートグラスを通じて遠隔地のタブレット端末上にリアルタイムに表示させるサービスです。本サービスを活用することで、スマートグラスの映像を通して生産者がこだわりを直接、小売店や飲食店などに説明することができ、小売店/飲食店側はタブレット上で欲しい商品を購入することができます。

なお本取り組みは、凸版印刷が「インバウンド・観光の再生」分野においてコーディネーターを務めている、「大阪スマートシティパートナーズフォーラム」の取り組みの一環として実施します。



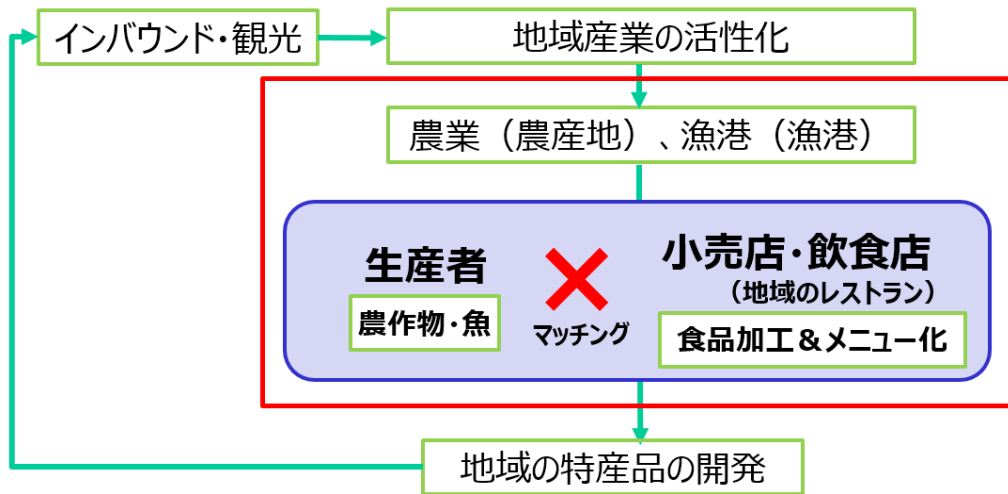
藤井寺市での「特産品バーチャル商談会」実証の様子(上段)
農園と藤井寺市内の飲食店をマッチングさせ生み出した商品(下段)

© TOPPAN INC.

■ 実施の背景

地域の特産品の流通において、生産者のこだわりを活かした生産数の少ない農作物や、水産物の流通経路が体系化されていないことが課題になっています。一方、こだわりの農作物や水産物を市場ではなく直接お店で販売/提供したいという小売店や飲食店も数多くあります。

このような中で凸版印刷は「大阪スマートシティパートナーズフォーラム」の一員として、新たに「特産品バーチャル商談会サービス」を開発。これを利用して、生産者と小売店・飲食店のマッチングを目的とした商談会を開催します。地域の特産品と小売店や飲食店との連携の支援を行います。同時に本取り組みを通じて、新型コロナウイルス感染収束後に予想される、観光客受け入れの前準備として、地域経済の活性化を目指します。



サービス概要

© TOPPAN INC.

■ 「特産品バーチャル商談会サービス」特長

・生産者の目線で特産品の魅力を聞くことが可能

生産者が装着するスマートグラスから送られる農場や漁港の映像が、遠隔地のタブレット上にリアルタイムで表示されるため、まるで現地にいるかのような臨場感で、特産品の魅力を体感することができます。

・タブレット画面を操作することで、生産者との相互コミュニケーションが可能

タブレット画面をタッチすると同時に、スマートグラス上でも、タッチした箇所が表示されます。これにより、同じ映像を見ながら「この果物は熟していますか」や「この魚が欲しい」など、遠隔地にいながらも指示を出せる相互コミュニケーションが可能です。

・特産品の指定した色のみを表示する色判定モードを実装

タブレット上に表示された農産物や水産物の色を数値化し、指定した数値(色)のみを抽出して表示ができる「色判定モード」を搭載。遠隔地から色づくに基づく「食べごろ」などの品定めを支援します。

泉州の漁港とフードフェア会場をつないだバーチャル水産物商談会

こだわりの食材を目利きして仕入れたい、距離など実際訪問が困難なのでオンラインで商談したい、専門家の目線映像で伝えたい等、遠隔での商談に応える機能を開発。



「特産品バーチャル商談会」サービス概要

© TOPPAN INC.

- * 本ニュースリリースに記載された商品・サービス名は各社の商標または登録商標です。
- * 本ニュースリリースに記載された内容は発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。

以 上